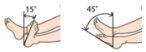
大腿骨近位部骨折で入院された方へ

患者氏名　@PATIENTNAME　様

病状説明:	退院基準:周手術期の合併症がない	特記事項
大腿骨頚部骨折に対して観血的整復固定術(骨接合術)または、人工骨頭置換術を行います		

	入院	手術当日(前)（　　/　　）	手術当日(後)（　　/　　）	手術1日目（　　/　　）	手術2日目（　　/　　）	手術3日目（　　/　　）	手術4日目～退院(転院)
検査 治療 処置	●術前下肢静脈血管エコー検査		●心電図モニターを装着します ●弾性ストッキングを着用します ●血栓予防のためにフットポンプを装着します→ 翌朝9時まで ●血圧測定を行います(帰室時・帰室30分後、1時間後、2時間後、4時間後、手術翌日) ●術後必要時酸素吸入を行います	→車椅子移乗後、血圧、脈拍、呼吸の乱れがなければ外します ●血圧、脈拍、呼吸、体温、酸素飽和度の測定を3回/日行います ●血液検査			→退院まで ☑抜糸不要 ☐抜糸済 ☐抜糸未 ●術後4日目から1回/日 ●術後7日目 血液検査　骨密度検査 ●術後8日目 両股関節レントゲン検査 必要時下肢静脈エコ検査 ●術後13日目血液検査 ●術後14日目 両股関節レントゲン検査
薬剤	●普段内服している薬がありましたらお知らせください 	●お薬によって休薬する場合があります　(看護師・薬剤師から説明します)	●手術室で点滴を始めます→ ●痛みがある場合は、鎮痛剤を用います	●食事の量が少ない場合、点滴で補います ●持参薬の内服開始 ●血栓予防薬1錠内服します ●鎮痛剤1錠　毎食後と眠前に内服します			→ ●術後8日目 骨粗鬆症のお薬を飲みます
安静度	●翌日までは床上(ベッド上)安静になります ●寝返りは看護師が介助します		●症状安静・介助にて30度ギャッチを挙げます ●横向きは看護師介助で行います	●車椅子に移乗して食事をとります ●体調に応じてリハビリテーションのお部屋に行きます ●理学療法士と看護師介助のもと離床します(手術翌日患肢全荷重可)		●ベットから離れた生活に慣れます	
リハビリテーション	●痛みと必要性に 応じて座位をおこないます→ 			 状態を観察して、車椅子移乗、歩行器歩行、杖歩行に進めます 車椅子移乗が難しい場合、車椅子移乗ができるところまで進めます ●車椅子への移乗が難しい場合ベットの上で機械を使って行います ●両方の足首や膝立などベットで行える運動を積極的に行います  ●血圧や発熱の具合でリハビリ室でリハビリを行います			→ ●リハビリ、痛みの程度の応じて歩行訓練を行います ●リハビリ室で歩行訓練や生活動作の訓練を行います ●歩行の到達状況を確認して病棟内でも歩行訓練を行います ●トイレ移動動作の練習を看護師が介助します
排泄	●入院時に膀胱留置カテーテル(尿の管)を留置します→			→ ●トイレ排泄の練習を行います ●症状や歩行の状態に応じて排泄のお手伝いを行います	●尿の管を抜きます　(車椅子移乗に問題なければ)		→ →
清潔		●手術部位の汚れを可能な範囲でふき取ります ●手術着に着替えます		●看護師がお手伝いして体をふき、着換えをします ●尿の管がある間は毎日陰部洗浄を行います	→ →		●洗髪を行います ●術後7日目以降、手術創に問題がなければ介助シャワーを行います
栄養管理		●水分・食事は禁止です	●帰室後4時間経過して腸の動きがあれば飲水を開始します 術後の初めての飲水は看護師と一緒に行います	●術翌日朝から食事が始まります→ 	●食事形態は随時相談します		
説明　指導　教育	●入院に必要な書類の提出をお願いします ●病棟内や手術について説明します ●介護保険や介護サービス利用についてお尋ねします ●退院後の生活のために自宅環境について確認します ●退院支援を開始します ●手術同意書・麻酔同意書の確認をします		●主治医より手術結果について説明があります	●人工骨頭置換術の場合は、脱臼に注意した生活や家庭環境について指導します	●栄養指導を行います	リハビリ病院へ転院される方 転院日時　　月　　日　　時頃	●8日目以降退院計画を立てます ●リハビリを継続して行います ●リハビリ通院があります